

こどもが熱を出した時には

2013.06.05

多くの学校では運動会が終わってほっと一安心でしょうか。6月になってぐっと暖かさを増して過ごしやすい季節がやってきました。函館のB型のインフルエンザも少し落ち着き、おう吐や下痢と伴うウイルス性胃腸炎以外は目立った感染もなくなりました。

新しい年度が始まり、入学や入園をきっかけにして風邪をひきやすくなった、やっと保育園に行けるようになったのに、すぐ熱を出したなど、病気に対する悩みは尽きません。熱が続くと知能に影響が出るのではないか、風邪と言われたけど熱が下がらないので大きな病気が隠れているのでは・・・、いろいろなことが頭をよぎって寝られない夜もあるのかもしれないですね。

子供の発熱の多くの原因はウイルス性と考えられています。だいたい9割くらいがそうだと考えてもらって構いません。多くは発熱期間は2～3日で、ウイルス性ですので細菌感染にしか効かない抗生物質は飲んでも効きません。

熱がつらい時には、坐薬などの解熱剤で熱を下げることは有効ですが、熱を下げることはウイルスと闘うために上げた体温を下げてしまうので、病気を早く治すことからすれば、逆効果ということになります。

熱の高さと病気の強さ、怖さとはあまり比例しません。それよりも、水分が取れているのか（食欲があればもっと安心ですね）、熱が下がっているときの元気さなどが医者としては知りたいところです。高熱でも、水分が取れて元気がよければ、夜中に慌てて受診する必要がありません。お父さんお母さんの感じる子供がいつもと違う、何となく元気がないといった普段よくみている人でしかわからないちょっとした違いが、診断の一助になりますので、是非伝えてください。

子供が病気の時どうしても休めないときは、北斗市、函館市、七飯町には病気の子供を一時的に預かる病児病後児保育室があります。また、ファミリーサポートでも対応可能ですので、利用にあたっては行政や病後児保育室にお問い合わせください。